



休眠預金コロナ禍緊急助成 地域円卓会議（オンライン）

コロナ禍を経て、事業の転換をせまられる NPO の次の一手を考え、
NPO への適切な助成のあり方を考える。

実施報告書

開催日時： 2021年5月25日（火）18:30-21:10

開催方法： オンライン会議（zoom）

配信場所： 公益財団法人みらいファンド沖縄

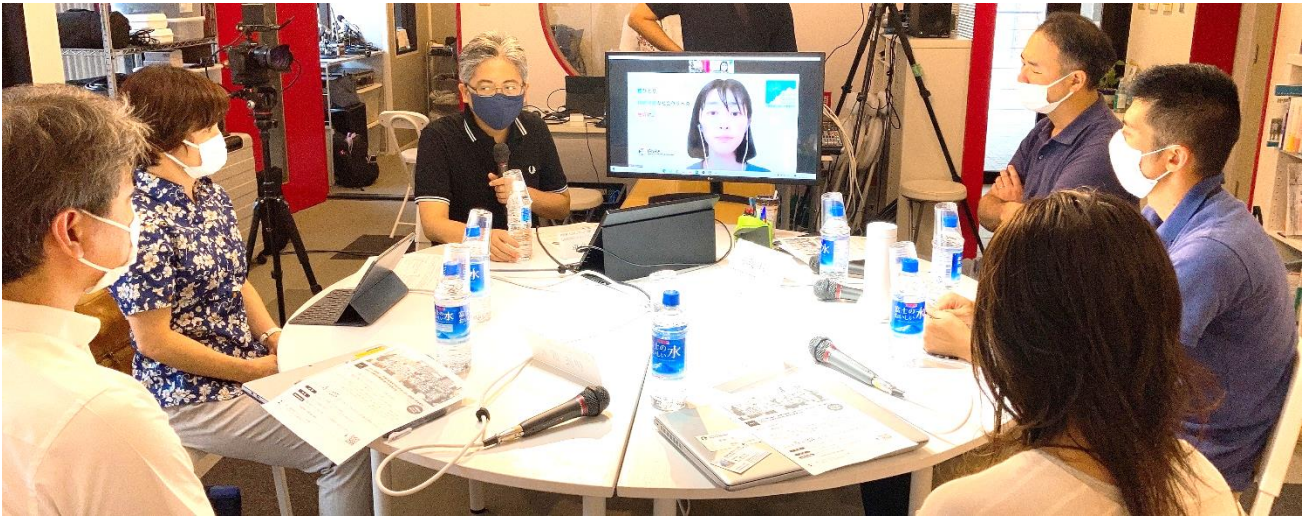
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄

協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく

ACTIVITY REPORT

【報告】休眠預金コロナ禍緊急助成地域円卓会議



- 開催日時：2021年5月25日（火）18:30-21:10
- 開催方法：オンライン会議（zoom）
- 配信場所：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：22名（NPO・市民団体、企業、学生等）
- 主催：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 協力：NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

小阪 亘（公益財団法人みらいファンド沖縄 代表理事）

鶴田 厚子（公益財団法人みらいファンド沖縄

『コロナ禍で孤立した NPO とその先の支援』事業プログラムオフィサー）

コロナ禍を経て、事業の転換をせまられる NPO の次の一手を考え、
NPO への適切な助成のあり方を考える。

公益財団法人みらいファンド沖縄では、休眠預金を活用したコロナ禍における緊急支援助成の事業を 2020 年 11 月から約半年間実施しました。「コロナ禍」という危機的な社会状況の中で、NPO は様々な理由で事業の転換をせまられることがあります。このような転換期での NPO への適切な助成のあり方を考えます。

センターメンバー



小阪 亘
公益財団法人み
らいファンド沖
縄 代表理事



鶴田 厚子
公益財団法人み
らいファンド沖
縄 プログラムオ
フィサー



南 信乃介
NPO 法人1万人
井戸端会議
代表理事



奥山 有希
NPO 法人沖縄
NGO センター
事務局長



伊波 晋
公益財団法人
沖縄県地域振興
協会



渡嘉敷 洋美
まちづくり協働
推進課



笹原 千奈未
一般財団法人
日本民間公益
活動連携機構

➤ 地域円卓会議の動画記録



・公開日：2021年10月12日

・URL：<https://youtu.be/mdpTM99pbf4>



・公開日：2021年10月12日

・URL：https://youtu.be/FGhEbNX_EOs

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 資金の出し手が、常に社会課題に向き合っている人と、どれだけコミュニケーションをとっているか問われる。
- 2) 広域的な事業を行なう際、助成先を選考し、伴走しながら、事業変更を認めていく。そのためには、資金の出し手が社会課題を理解し、主体性を持つことが求められる。出し手のそれぞれの得意分野を生かした連携も深める。
- 3) 助成先に「伴走」してハンズオン支援していく。伴走のあり方をもう一度考える。
- 4) 緊急時の資金の出し方について、どのように連携し、準備するか。この1年の経験を踏まえて、シミュレーションや、ルール作りを行なう。

■参加者によるサブセッション

コロナ禍を経て、事業の転換をせまられる NPO の次の一手を考え、 NPO への適切な助成のあり方を考える。

(参加者記載の原文、発表内容を記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②…と記載)

① オンライン居場所

- ・職員がオンラインの勤務に対応できない
 - ・オンライン上でデリケートな情報等の共有がセキュリティ上難しかった：課題
 - ・ICT 推進事業ということで、活用させてもらった。
 - ・職員も一堂に介する研修、オンラインで研修できる機材やオンラインでの出前講座記録の残し方コンテンツの提供インフラの整備。
 - ・キントーンとサイボウズオフィスを活用。
 - ・効果は大きい、事業所間のやり取りが活発、通っている児童生徒に対して円滑なサービス提供につながった。
- ジュニアジャズの活動(6年目)
- ・緊急事態宣言で、今日から6月20日まで活動休止。
 - ・助成金、活動は4月からスタート、実際は6月18日頃から再開、7月の再休止。
 - ・通常の30%減の活動回数。
 - ・練習会をなんとかコロナ対策をしながら実施。
 - ・地域の文化祭や、地域と触れ合う機会が奪われた。
 - ・博物館美術館の機会のみ。
 - ・公民館の成果発表、年に1回の発表会(収録して配信する)
 - ・マイクや配信機材を揃えられて配信できた
 - ・日頃の成果を発表する機会を提供できた
 - ・コロナ禍のあとももとに戻らない前提で対応。

・指導方法もリモートを取り入れたり転換を検討。

・今回の資金は非常に助けられたので、次の事業展開が非常にスムーズ。

次の助成のあり方

- ・組織基盤の強化、機動性のあるスキームにする
 - ・最大公約数にするスキーム(JANPIA 自身としての課題)
- こうだったら使いやすかったと思う意見
- ・融通がきく
 - ・組織強化ができた。
 - ・事業計画今後の展開に緊張感が出た。
 - ・そういった意味では非常に効果があった。
 - ・助成を受ける準備そのものが強化につながった。
 - ・効果というのが毎日変わっているので、法人が継続できるためと考えていたが動画の編集や配信に関してレクチャーを受けたことでクオリティの高いものを制作できるスタッフがスキルアップ、就業訓練につながった。
 - ・子どもたちに対する効果も高かった
 - ・活動自体目的以上ものにつながった
 - ・数字として設定していたものとは違う部分で出てきた。
 - ・委託や仕様書ありきだと今回のような効果には繋がらなかつたのではないかと考える。
 - ・自ら企画し、100%助成もらえることの効果の高さを感じている。
 - ・選抜されての委託もあるが、がんじがらめになる。

・今回は、ある程度の自由度が担保されていて、どうやって組織強化するかという取り組みができたのは非常に良かった。

・コロナ対策を子どもたちへの伝え方、現場での対応の仕方

・緊張感はあるが、課題意識を持って活動できた。

・なので今回のような助成金が、今後も様々な活動に展開できると考える。

② ・休眠預金については、初めて知ったので興味深かった。

・申請書の苦労話

・一方的ではない、助成側に併せた申請のあり方の必要性。

・休眠預金の性質上、公益性のある事業に使う必要性について。

・広義的な NPO と NPO 法人の違い。

・NPO の給与体系等。

③ ・文化団体はコロナ禍でもできないのではなく、リモートというてを使っても継続した方がいい

④ ・宜野湾市我如古さん：地域づくり推進事業助成金

市民団体が行う人材育成、地域文化の振興に対して最大 50 万円

毎年 10 月に募集して、翌年に 1 年かけて実施

課題】助成金は 3 年まで交付を受ける。3 年後自走してもらうが、この支援ができていない。

過去に助成金を受けた団体とのつながりがなくなっている。

・長堂もボランティアで補助金をもらっている。

同じように自走を求められているが、むづかしい。

・奥山さん

休眠預金の助成が 5 月で終わる。この枠でやりきれないことが見えてきた。

課題も多くでている。コロナの課題もまだ必要だと感じている。

コロナで濃厚接触になった方へのサポートがない。

※感染したらサポートあるが、濃厚接触は自宅で療養。

一人暮らしだと、サポートが届かない。

NGO として、医療関係のサポートができていないので、つながって、サポートを考えないといけない。

→休眠預金が終わったあとできるかということ、活動枠が大きくなっていくことがでくる。

→この枠の助成金がでてくるか？

→土台を作るのにお金を使える助成金がでてこないか？

コロナ禍でやってるからこそ、新たな課題が見えてきた。(教育、医療、情報の多言語化など)

通常は新しい課題はそこまででてこない。

・クラウドファンディングは考えてない？

→やりようによってはあるかも。団体として、新しい活動をやっていくかを決めていけないといけない。

・ベトナムの人で、技能実習生で働く人ではなく、エンジニアもいる。同じ母国出身で日本語が長けている人もいるので、そういう人にサポートをもらうのも手では？

⑤ ・企業側としてお金の流れは知っていたが、NPO のお金の使い方にこんなに多様性がある点勉強になった。

・地域で動いている NPO だが、法人格のない団体含めて、どのように動いているのか。いろいろな立場の方がいるというのが、気づきだった。また、いまだ見つけられていない課題があると思う。

- ・コロナ禍で現場の NPO が頑張っている状況が勉強できた。伴走型支援が必要。
- ・那覇市の少額であるが、使い勝手がいい助成金を活用できたのも大きかった。

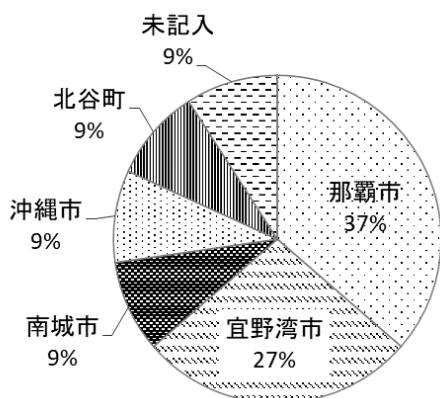
プレゼンテーションのある助成金は、過程が大事で企画力も身につく良さがある一方、審査が簡略な助成金は、緊急的に活用ができ、メニューが多い方がいい。

休眠預金コロナ禍緊急助成地域円卓会議 参加者アンケート集計

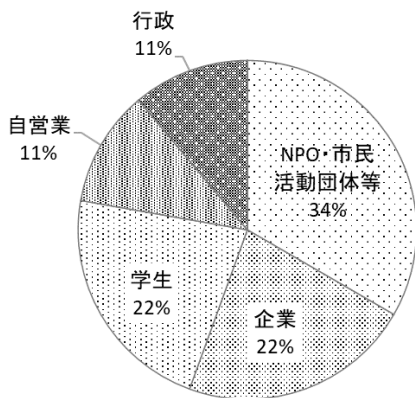
◆概要

- ・開催日時：2021年5月25日（水）18:30-21:10
- ・開催方法：オンライン会議（zoom）
- ・配信場所：公益財団法人みらいファンド沖縄
- ・着席者：9名（司会、記録者含む）
- ・参加者：22名（アンケート回収11名、回収率50%）

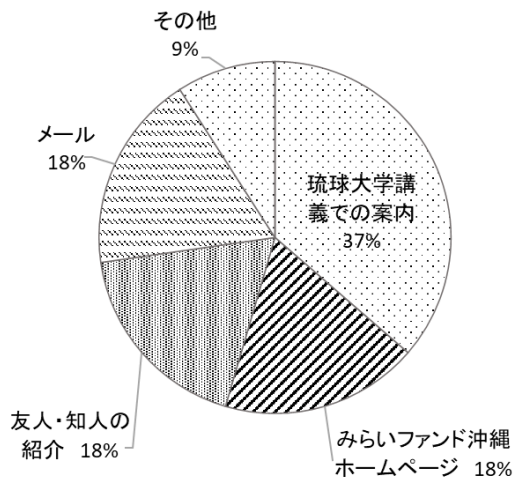
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.8（5点中）

満足度	人数
5. 満足	9名
4. 概ね満足	2名
3. 普通	0名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・助成金という広くくりに対して、活用する側、資金を提供する側それぞれの立場から意見が飛び交い、今後の取組に対する課題や、取り組むことに対する効果、フィードバックなどを客観的に得ることができた。
- ・助成を出す側、受ける側双方の声を聴くことができた。
- ・“休眠預金という言葉は知っていても、具体的に利用されている方の話が初めてだったこと。さらにタイトル通り、コロナ禍でNPO、NGOの皆さんがこれまでの活動とは異なった動き、転換を迫られている実態を知ることができた。
※学生の立場として、地域円卓会議を体験できたことも大きいです。”
- ・休眠預金という新しい財源を通じて、助成金があるべき基本のようなものを確認できました。
- ・助成金のしくみが今更のように勉強になりました。
- ・助成団体としての助成及び伴走支援等の在り方や、主体性の持ち方等の課題が見えてきた。
- ・休眠預金に係る現場の声、また休眠預金の支援制度全体から見た話しが聞けて、興味深かった。
- ・休眠預金を活用した事業について知ることができ、とても有意義でした。ありがとうございました。

(4. 概ね満足)

- ・ 実行団体として、休眠預金の活用についてや、助成金の出し手の悩みを
- ・ トピックが少し難しかった。しかし、新しく学べたことも多かった。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 構築してきた、あるいは構築の必要なつながりという客観的には分かりづらいものに対して、どのように維持していくか、またそのようなつながりのある人、組織をどのように見つけマッチングしていくかという点に関する内容。
- ・ “助成金を出す側の主体性も必要ということ
・ 見えにくい課題をどう評価するかという点は、大事な視点だと思いました。
・ お金以外の支援をどう作っていくか考えたい”
- ・ “伴走が必要。金の切れ目が縁の切れ目にならないような活動
NGO 奥山さんより、コロナ禍だからこそ出てくる新しい課題はこれまでの NGO の枠（土台）を超えて求められていることに対して、NGO としてやるかやらないかの決断も迫られているという話がありました。まさに、転換だと感じ、印象に残りました。”
- ・ 平良さんがまとめた資源と伴走という話や、臨機応援に助成の目的など変化させていく柔軟性など。
- ・ 実行団体から資金分配団体に提言、は驚きました。
- ・ 助成金を出す団体が連携する必要はありかなと思います。いろんな種類や対象の幅が広がると思います。
- ・ 助成の在り方として、公平性だけでなく、課題解決につながるためにも、メニュー（金額・選考方法）をもっと増やすとよいのではないかと。併せて助成団体のネットワークをもっと密にし、申請団体の段階に合わせ、資金のリレーが円滑に行えるようになると理想的である。
- ・ 助成におけるお金の種類と段階。分かりやすい課題と分かりにくい課題におけるファンドレイジングの手法の違い。伴走支援について。
- ・ コロナ禍においても、休眠預金を活用することで事業を継続する支援ができるということがとても良いと思いました。行政側の給付金に頼らず、事業者自ら計画をたてることで、より有効に資金を活用できるという点が印象に残りました。また、笹原さんの「現場の声が後押しになった」というお話も印象的で、現場の事業者が声をあげていくことの重要性を改めて学ぶことができました。ありがとうございました。自分自身でも、更に休眠預金を活用した事業やどのようなニーズがあるのかを勉強したいと思いました。
- ・ ベトナム人向けの日本語サークルの取り組みが気になった。
- ・ “必要とされるからニーズではなく、あり続けるものもニーズということの認識
それを助成や委託でどの程度双方認識しあっているのか
成果だけでなく、そのほかの指標をどうするのか考えていく必要があります
どうしても助成等を受ける側だけではその解決は難しく
双方の歩み寄りで達成されるものだと思います。”

<会場の様子>



<板書記録>

休眠預金コロナ禍緊急助成 地域円卓会議

コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える

2021年5月25日(火) 18:30-21:10

@オンライン会議 (zoom)

主催 公益財団法人みらいファンド沖縄
協力 NPO法人まちなか研究所わくわく
新型コロナウイルス対応緊急支援助成
「コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援」実行団体

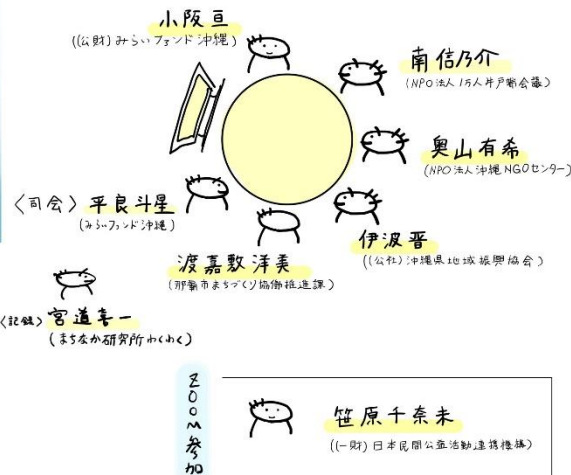


2021.5.25 電話 |

地域の困り事と
社会課題とい
共有・共感する場

96回目

2021.5.25(火)
18:30 ~ 21:10



論点提供



小阪 亘 さん

鶴田 厚子 さん

(公財)みらいファンド沖縄

コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える

新型コロナウイルス対応緊急支援助成 コロナ禍で孤立したNPOと その先の支援



背景説明

休眠預金の活用：



2009年以降10年以上取引のない預金等(休眠預金等)は、2018年1月より民間公益活動に活用されることになっている。活用は、一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)が法律に基づいて担っている。

活用の目的：

- (1) 国、地方公共団体が対応困難な社会の諸課題の解決を図る
- (2) 民間公益活動の担い手の育成と民間公益活動に係る資金調達の循環を整備

新型コロナウイルス対応緊急支援助成

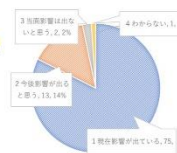
2020年8月に「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」事業の資金分配団体として採択された。

「新型コロナウイルス感染拡大への対応及び支援に関する沖縄県内NPO 法人等緊急アンケート」

沖縄県内のNPO、市民活動団体を対象に実施。アンケート結果(回答数：91件)
調査期間 2020年4月6日(月)～4月20日(月) / 15日間

実施主体 おきなわ市民活動支援会議
(構成団体：一般財団法人沖縄県公衆衛生協会、NPO法人沖縄NGOセンター、NPO法人まちなか研究所わくわく、公益財団法人みらいファンド沖縄、他)

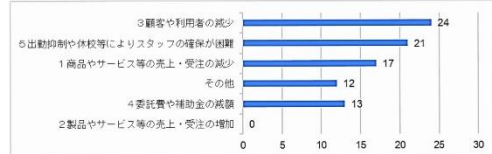
- 活動内容における何らかの影響 **96.7%** (88件)
- 法人(組織)の経営における何らかの影響 **79.2%** (72件)



コロナ禍において、NPO や市民活動の事業継続に影響が出ており、今後、**NPO 等による多様な支援を受けている方々が支えを失う恐れ**がある。

「法人の経営」について、[1 現在影響が出ている]を選択された方にお尋ねし、具体的な影響の内容について当てはまる内容を選択してください。(複数選択可)

1 商品やサービス等の売上・受注の減少	17	19.5%
2 製品やサービス等の売上・受注の増加	0	0.0%
3 顧客や利用者の減少	24	27.6%
4 委託費や補助金の減額	13	14.9%
5 出勤抑制や休校等によりスタッフの確保が困難	21	24.1%
その他	12	13.8%

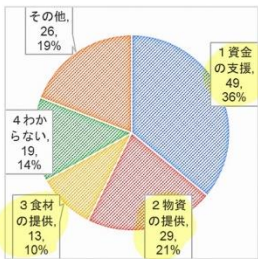
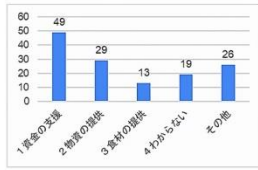


「顧客や利用者の減少」が19.5% (17件)、続いて、「出勤抑制や休校等によりスタッフの確保が困難」「商品やサービス等の売上・受注の減少」が19.5% (17件)、「委託費や補助金の減額」が14.9% (13件)と、**経済的に大きな影響を受けているだけでなく、スタッフ確保にも困難を抱えている。**

2021.5.25 電話 | 2

特に必要な支援策（複数選択可）

1 資金の支援	49	36.0%
2 物資の提供	29	21.3%
3 食材の提供	13	9.6%
4 わからない	19	14.0%
その他	26	19.1%



「資金の支援」が36.0% (49件)、「物資の提供」が21.3% (29件)となっている。
緊急経済対策等においてもNPO等も対象とし、**資金的な支援**が届くようにすることが必要。

「新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業」

事業名：

「コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援：アフターコロナに必要な団体の存続のために」

事業の（1年後）の目標

実行団体が事業を継続できる体制を整え、社会的に孤立する人々に対する支援ができていく。さらに、事業が取り組む課題の明確化と社会との共有がなされ、リーチした現場の方々の声をもとに新しいセーフティネットの政策提言が発信されている。

事業期間：2020年10月～2021年5月

採択実行団体：6団体（沖縄県内で活動する県内の団体）

1団体あたりの最大助成額：上限360万円

半年での緊急支援

60万 × 6ヶ月 = 360万

雇用と切りこさなく

今の課題に向きあい、活動できるよう

良かった点

- やりたかったことがやれた
- 組織のターニングポイントに
- 期間、規模は適切
- その他（伴走・柔軟さ・基盤強化）

良くなかった点

- 会計

実行団体へのヒアリングより

実行団体 パートナリシップで、伴走型の支援

団体名	事業名
1万人井戸端会議	「課題の見える化と行動できるコミュニティへ」
沖縄NGOセンター	「多文化共生セーフティネットワークの構築」
沖縄県学童・保育支援センター	「コロナ禍だから繋がろう！子どもたちに遊びを取り戻すために」
おきなわジュニア科学クラブ	「子どもの居場所 X フードステーション」
沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい	「アンダーコロナに対応するICT整備事業」
琉球フィルハーモニック	「音楽による子どもの居場所づくり」

2021.5.25 電話 3

コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える

NPO法人1万人井戸端会議 代表理事
那覇市繁多川公民館 館長

南 信乃介 氏



NPO法人1万人井戸端会議

ミッション

社会教育の視点で1万人規模(生活圏)での持続可能なまちづくりを行う

那覇市繁多川公民館指定管理運営
いどばた学童クラブ運営

迫られた転換

自粛の影響で地域の困りごとが見えなくなった。コロナ禍でも課題の見える化と行動できるコミュニティへ



あたり前のこと 大きな断絶

収入が入りやめい事業 → キャンセル

不安定 止めずに動く

▶ どれだけ継続できるかの不安 (法人経営)

訪問支援

拠点運営 → 情報共有

学校・こども園・老人福祉センター
ヒアリング

若手会 やってみたい
20~50代 プロアクションへ

何か困りごとがみえなくなった
人のつながりでニーズキャッチしていた
アクションの方向が定められない
70・80代の高齢者（担い手だった
中高生）

20・30・40代とのつながりうすかった
その弱さも実感

活用した事業



大事にしたかった視点
休眠預金活用に応える公平性。事業終了後も、地域に残ること。積み重ねる事ができること。協働する仲間が見えていくこと。



- 変更けこうした
- コロナおちっていることを想定して → おちつかない
- 責任をはたすことの意識
- 基盤整備につながった
- 会計の責任 → わかっているが大変であった

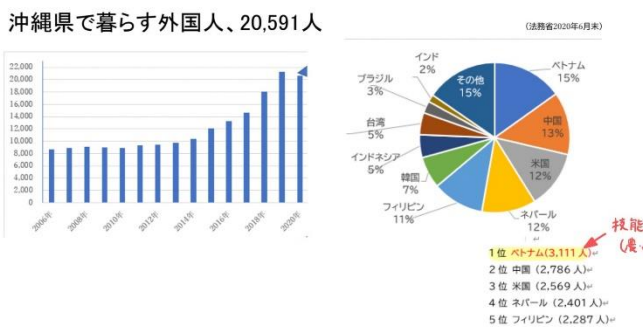
2021.5.25 電話 4

NPO法人沖縄NGOセンター事務局長



奥山 有希 氏

学生時代にNGO活動を経験、中間支援団体である沖縄NGOセンター（ONC）とは、その頃から繋がっていました。その後企業へ就職、さらに小学校と中学校の学校教員を経験し、それでも学生時代に経験したNGO活動が忘れられず、2018年よりONCで働かせてもらっています。



日本語サークル → むずかしくなり
サークルの外国人とどうつながるか
学びを止めない(先生と)
オンラインの使い方を学校へ
2020.5月~

コロナ禍守る
名護市で日本語サークルのつな
地域でつながり
あえる

つながりをキープしていく

新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業(体験預金活用事業)
多文化共生セーフティネットワークの構築~コロナ禍のいま、地域で共に生きるために~

地域での顔の見える関係性や外国人を含むセーフティネット構築のきっかけをつくり、コロナ禍において、また災害時において、誰ひとり取り残されない地域社会のあり方を模索し、多文化共生への意識啓発につなげる

NAGO VINAのコロナ禍
ベトナム技能実習生対象の地域日本語サークル(NAGO VINA)と連携し、地域交流イベントを開催することにより、つながりをうみだす

地域日本語教室(NHONGO PLAZA)スタート
地域に暮らす外国人の言葉の壁を共有し、気軽にコミュニケーションがとれる地域内の仲間としての関係性を構築する。




中部日本語サークル

名護オンライン交流

新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業(体験預金活用事業)
多文化共生セーフティネットワークの構築~コロナ禍のいま、地域で共に生きるために~

地域への意識啓発セミナー等開催

特定技能についてOMTG(4/10実施)
特定技能(介護)制度について理解を深め、地域で関わる関係者の連携、サポート体制について意見交換を行う。
特定技能についての疑問や心配事を気軽に相談し、スムーズに対応できる関係性をつくる。

【外国人材について考えるセミナー(4/2開催)】
外国人材に関する情報不足や雇用するうえでの手続き上の問題、内面的なケアへの不安などを互いに共有し、今後の取り組みへの一歩となる機会とする。


【コロナに関する情報提供セミナー】
在留外国人へのコロナに関する情報提供が不十分ということを受け、やさしい日本語を活用しながら、情報を提供。

【外国人滞在実態に関する相談会】
地域在住のベトナム人が安心して生活するために、滞在資格や日常生活において困っていることや疑問点等を共有し、対応の手立てについて知る。



2021.5.25 電話 5

公益社団法人沖縄県地域振興協会



伊波 晋 氏


地域づくりに助成
年間トータル1万円

↳ 民間1000万円
行政9000万円
41町村

助成担当者 → 手伝う
コロナ禍 → 一緒に考え
考えを整理する

- コロナ禍に対応する助成はできなかった調整がむずかかった
- 課題解決型のメニューを持ってれば
- 伴走型 低金利時代 お金だけを出すことも難しい

那覇市まちづくり協働推進課
なは市民活動支援センターグループ 主幹



渡嘉敷 洋美 氏

空間の場の提供できなく
学びの場 → ゆう先度低く(みなさん)
助成金 → 額少 伴走
↳ 一定成果みえた
1件100万~10万 ← スタート3ヶ月
プラッシュ3ヶ月
新キの活動はじまり
おそのの活動サポート → 役割分担
↳ お金出しの
今期もボ集(総額800万)
↳ コース分けを明確に
学生(学び→実践 何かしたい 気軽に)

2021.5.25 電話 6



一般財団法人日本民間公益活動連携機構
笹原 千奈末 氏
 JANPIA

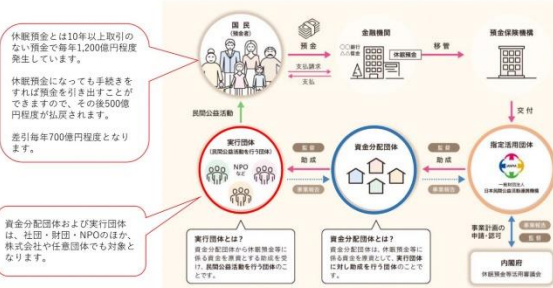


2021 36初 通常枠
 40初 コロナ枠

新型コロナウイルス対応緊急支援助成の特徴

- ・助成額の増額
 通常枠とは別にコロナ対応支援枠による資金分配団体への助成枠を用意（総額は2021年度を通じて、総額40億円を予定）
- ・申請方法と提出書類の緩和
 通常枠では公募システムからの申請をするところを申請ページへの書類提出で申請可能とし、個別規程類を申請時提出書類からは削減し事業実施期間で整備のポイントを留意
- ・随時申請可能な受付体制に変更
 公募期間を一定期間で区切らずに、随時申請が可能な受付体制に
- ・申請要件の緩和
 資金分配団体、実行団体共に自己資金20%の確保を必要としない
 実行団体の管理的経費の上限を助成額の15%→20%に増額
 評価の運用上の要件の緩和（アウトプット重視、提出書類削減）

休眠預金等活用の流れ



休眠預金の活用状況

■資金分配団体による助成事業数（累計）
80事業
 2019年度通常枠 24事業
 2020年度緊急支援枠 20事業
 2020年度通常枠 20事業
 2020年度緊急支援枠+通常枠 16事業

■資金分配団体総数（コンソーシアム構成団体含む総団体数）
112団体
 資金分配団体78団体
 +コンソーシアム構成団体34団体
 2019年度通常枠 22団体+4コンソーシアム構成団体
 2020年度緊急支援枠 20団体+8コンソーシアム構成団体
 2020年度通常枠 215団体
 2020年度緊急支援枠+通常枠 165団体+11コンソーシアム構成団体

■助成予定総額
約94.4億円
 2019年度通常枠 約29.8億円
 2020年度緊急支援枠 約16億円
 2020年度通常枠 約20億円
 2020年度緊急支援枠+通常枠 約20.6億円

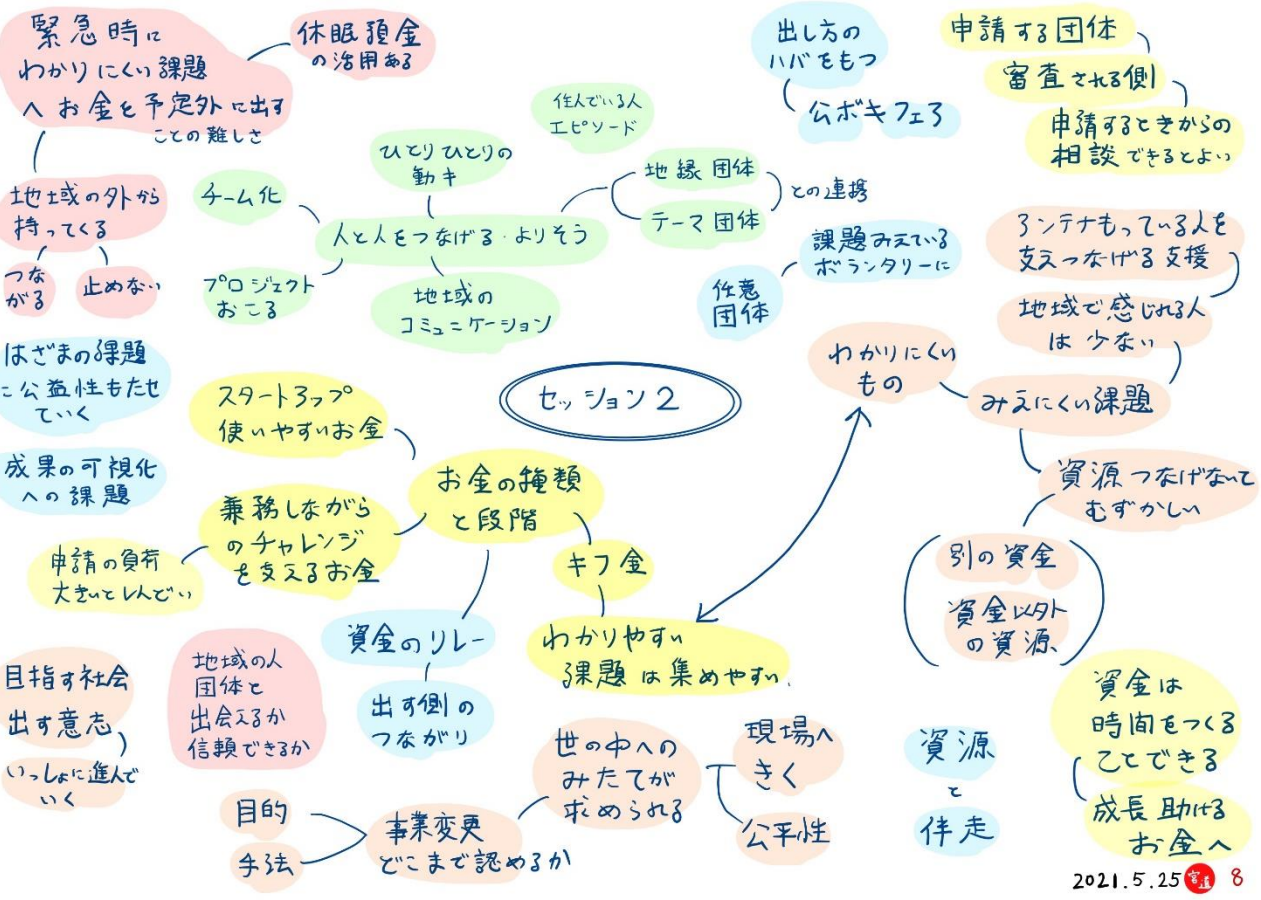
■実行団体数（累計）
500団体以上（20年度末現在）
 2019年度通常枠 142団体
 2020年度緊急支援枠 215団体
 2020年度通常枠 公募・選定中
 2020年度緊急支援枠+通常枠 公募・選定中

複数事業採択を除く、資金分配団体実数 **70団体**
 資金分配団体50団体
 コンソーシアム構成団体20団体

【公募の活動対象地域が特定の事業は4事業】
 公益財団法人オアシス・フロンティア（19団/20団）
 公益財団法人オアシス・フロンティア（20団）
 公益財団法人九州経済調査協会（20団）
 特定非営利活動法人シラノ・プラットフォーム（20団）

沖縄を活動対象地域にする実行団体：24団体
 ※数値は約

- ・活用しないという選択は多いという声もある中、
 - ・現場からの声はあておいて
 - ・団体助成へのケネン
 - ・包括的な支援
 - ・『止血』+『次の展開』へのねらい
- 丹卓会議
 非資金的支援
- 2021.5.25 8



2021.5.25 8



平良斗星さん(同会)

- 資金を出す側が、社会課題に向きあっている人とコミュニケーションをとっているか問われる。
- 選考し、伴走しながら、事業変更を認めていく。そのためは、社会課題の理解と資金の出し手の主体性が求められる。出し手のそれぞれの得意分野を生かした連携を深める。
- 「伴走」が難しい。伴走のあり方をもう1度、改めて考える。
- 緊急時の資金の出し方をどう準備するか。この1年の経験を踏まえて、シミュレーションを。

2021.5.25 9

<サブセッション記録>

休眠預金コロナ禍緊急助成 地域円卓会議

サブセッション 記録スライド

テーマ「コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える。」

発表希望

(メンバー：ルーム4 上原正広@琉球フィル、吉田りお@ちゅらゆい、笹原@JANPIA、上原大輝@琉球フィル)
オンライン居場所
職員がオンラインの勤務に対応できない
オンライン上でデリケートな情報等の共有がセキュリティ上難しかった：課題
ICT推進事業ということで、活用させてもらった。
職員も一堂に介する研修、オンラインで研修できる教材や
オンラインでの出前講座記録の残し方コンテンツの提供インフラの整備。

キントーンとサイボウズオフィスを活用。

効果は大きい、事業所間のやり取りが活発、
通っている児童生徒に対して円滑なサービス提供につながった。

ジュニアジャズの活動(6年目)
緊急事態宣言で、今日から6月20日まで活動休止。
助成金、活動は4月からスタート。

1

テーマ「コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える。」

発表希望

(メンバー：ルーム2、伊波晋@沖縄県地域振興協会、ツツキ、ナカマ@一万人井戸端会議、親沼@琉大一年生、志茂@フアンドレイザー)

- ・休眠預金については、初めて知ったので興味深かった。
- ・申請書の苦労話
- ・一方的ではない、助成側に併せた申請のあり方の必要性。
- ・休眠預金の性質上、公益性のある事業に使う必要性について。
- ・広義的なNPOとNPO法人の違い。
- ・NPOの給与体系等。

2

テーマ「コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える。」

発表希望

(メンバー：島中さん(琉球大)、渡嘉敷さん、上原 玲子)
・島中さん:文化団体はコロナ禍でもできないのではなく、リモートというを使っても継続した方がいい
・上原玲子
・渡嘉敷さん

3

テーマ「コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える。」

発表希望

(メンバー：奥山さん、我如古さん、長望)

- ・宜野湾市我如古さん：地域づくり推進事業助成金
市民団体が行う人材育成、地域文化の振興に対して最大50万円
毎年10月に募集して、翌年に1年かけて実施
【課題】助成金は3年まで交付を受ける。3年後自走してもらおうが、この支援ができていない。
過去に助成金を受けた団体とのつながりがなくなっている。
- ・長望もボランティアで補助金をもらっている。
同じように自走を求められているが、むづかしい。
- ・奥山さん
休眠預金の助成が6月で終わる。この枠でやりきれないことが見えてきた。
課題も多くでている。コロナの課題もまだ必要だと感じている。
コロナで連携活動がなくなったのサポートがたい

5

5

テーマ「コロナ禍を経て、事業の転換をせまられるNPOの次の一手を考え、NPOへの適切な助成のあり方を考える。」

発表希望

- ①南 信乃介 (NPO一万人井戸端会議)
- ②米敦 智 (かねひで総合研究所)
- ③比嘉 恒晴 (琉球大学)
- ④川上 伸一 (公社 地域振興協会)

②企業側としてお金の流れは知っていたが、NPOのお金の使い方にこんなに多様性がある点勉強になった。
④地域で動いているNPOだが、法人格のない団体含めて、どのように動いているのか。いろいろな立場の方がいるというのが、気づきだった。

また、いまだ見つけられていない課題があると思う。
④コロナ禍で現場のNPOが頑張っている状況が勉強できた。伴走型支援が必要。
①那覇市の少額であるが、使い勝手がいい助成金を活用できたのも大きかった。
プレゼンテーションのある助成金は、過程が大事で企画力も身につく良さがある一方、審査が簡略な助成金は、緊急的に活用ができ、メニューが多い方がいい。

6

6